

# 都市戦略



## ECO, SMART & SUSTAINABLE

効率的なエネルギー利用の仕組みを次世代へと引き継ぐとともに、環境に調和した都市空間を創出していきます。また、施設の長寿命化や再生により都市インフラを継承し、多世代が安心して住み続けられるまちが実現します。

この都市戦略には、そんな持続可能な未来の東京が詰まっています。

政 策 指 針

# 20

## スマートエネルギー都市の創造

東京の持続的発展を目指し、エネルギー面で様々な取組が進んでいます。

エネルギーマネジメントの普及や、水素エネルギーの活用拡大など、

省エネルギーと快適性・防災性を高次元で実現することで、

将来長きにわたって成長し続ける東京へと進化していきます。

# 東京の未来

## ▶ 世界をリードする省エネルギー都市・東京

東京の省エネルギー化を推進するには、幅広い分野での対策が必要です。事業所などでのキャップ&トレード制度※<sup>1</sup>をはじめとする取組や、住宅の断熱性能の向上、家庭へのHEMS※<sup>2</sup>設置などを促進します。さらに、地域間で熱や電気を上手に融通しあう仕組みにより、エネルギーの利用効率を高めることで、エネルギー消費量が減少していきます。

### ▶ エネルギー消費量

2030  
**-30%**  
(2000年比)



| 事 項                                      | 目 標 年 次     | 目 標 値             |
|------------------------------------------|-------------|-------------------|
| キャップ&トレード制度における第2計画期間の温室効果ガス削減義務率        | 2015～2019年度 | 17%又は15%          |
| 業務用コージェネレーションシステム※ <sup>3</sup> (CGS)の導入 | 2024年       | 60万kW(2012年度比約2倍) |

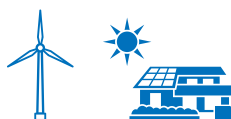
## ▶ 枯渇しない再生可能なエネルギーの導入を拡大

駐車場の上部空間、住宅や施設の屋根を利用した太陽光発電など、未利用地が少ない東京の特性を踏まえた再生可能エネルギーの導入が進められていきます。

### ▶ 再生可能エネルギー電力利用割合

2012  
約**6%** ▶ **20%程度**

2024



### ▶ 太陽光発電導入

2024  
**100万kW**

※<sup>1</sup> 大規模事業所等に温室効果ガスの排出量の上限を定めて、排出削減の確実な実施を担保するとともに、その過不足を取引によって移転または獲得することを認める制度。

※<sup>2</sup> 家庭の電力制御や家電製品等の効率的な運転管理によって、エネルギー消費量の削減を図るシステム。

※<sup>3</sup> 発電とともに発生した熱を冷暖房等に有効利用するシステム。

## ▶ 水素社会の実現を目指して

使用時にCO<sub>2</sub>を発生しないクリーンなエネルギーとして注目されている水素。水素社会の実現を目指し、都は燃料電池<sup>※4</sup>車の導入や水素ステーション<sup>※5</sup>の整備などを促進していきます。

### ▶ 燃料電池車

2020

**6,000** 台



### ▶ 燃料電池バス

2020

**100** 台以上



### ▶ 水素ステーション

2020

**35** か所



### ▶ 家庭用燃料電池

2020

**15** 万台



※4 水素と空気中の酸素を反応させ、直接電気へ変換し、反応時に水しかでないクリーンなシステム。

※5 燃料電池車に水素を供給するための施設。



政 策 指 針

# 21

## 水と緑に囲まれ、環境と調和した都市の実現

美しい自然環境を守りながら、発展し続けること。

成熟を迎えた東京が、世界一の都市となる上で欠かすことはできません。

彩りあふれる花や緑をはじめ、都心の中でも自然と調和し、

潤いや憩いを感じられる魅力的な都市を実現します。

## ▶ 緑豊かな安らぎのある都市・東京

公園や緑地をはじめ、民間の建物など、都市空間の中に緑あふれる環境がつくられます。また、都に残る希少な動植物の生息・生育環境の保全活動も進み、次世代に美しい都市を残すための様々な取組が広がっていきます。

## ▶ きれいな水を身近に感じられる環境へ

下水道対策など、水質改善に更に取り組み、きれいな水辺が増えていきます。また、葛西での海水浴や渋谷川の新たなせせらぎ空間など、水辺の魅力をより多くの人々が楽しめる環境が提供されます。

| 事 項                 | 目 標 年 次 | 目 標 値     |
|---------------------|---------|-----------|
| 降雨初期の下水を貯留する施設の増強※1 | 2023年度  | 170万㎡(累計) |



## ▶ 青空の下、都民が安心して過ごせるまち

車や船などから出される大気汚染物質を減らすことで、大気環境が更に改善していきます。また、都心部の道路には遮熱性舗装や保水性舗装が敷かれ、まちにはクールスポットが増えるなど、夏の暑さに負けない東京となります。

| 事 項           | 目 標 年 次 | 目 標 値   |
|---------------|---------|---------|
| PM2.5の環境基準達成率 | 2024年度  | 100%に向上 |

※1 貯留施設により雨天時に川や海へ放流される下水の水質や回数が改善。



政 策 指 針

# 22

## 都市インフラの安全性を高め、 安心できる社会の確立

将来、東京を支える都市インフラの多くが一斉に更新時期を迎えます。

それに備え、維持管理の充実で安全性を保つこと。計画的にリニューアルすること。

そしてリニューアルに併せて、機能をレベルアップすること。

都市インフラを良質な社会資本として次世代に引き継いでいきます。

# 東京の未来

## ▶ 生活を支える都市インフラを先端技術でしっかり守る

普段の生活に影響を与えずに下水道管をリニューアルしたり、トンネルの点検に解像度の高いカメラを用いたりするなど、先端技術を活用した安全管理が始まっています。



## ▶ 計画的な対応で持続可能な都市へ

都市を支え続ける道路や上下水道。それらの老朽化に備えた、橋梁の長寿命化や下水道管の再構築が進みます。さらに、防災や省エネといった多様化する社会ニーズに対応すべく、都市機能がレベルアップします。

| 事 項       |                   | 目 標 年 次 | 目 標 値            |
|-----------|-------------------|---------|------------------|
| 橋梁の長寿命化対策 | 長寿命化対策に着手する橋梁数    | 2024年度  | 160橋(累計)         |
|           | 隅田川に架かる著名橋の長寿命化対策 | 2020年度  | 11橋完了            |
| 下水道管の再構築  | 整備年代の古い都心4処理区     | 2029年度  | 100%完了(16,300ha) |





政 策 指 針

# 23

## 少子高齢・人口減少社会における これからの都市構造

将来を見据え、東京はどうあるべきか。

その答えのひとつが、集約型の地域構造への再編です。

拠点的な市街地を再構築し、駅などを中心に都市機能が集約。

また、良質な住宅ストックの形成・活用や、大規模な住宅団地の再生による  
地域の活性化などにより、多世代にとって安心で快適な都市生活を実現します。

### ▶ 都市の魅力を高める集約型地域構造への再編

駅などを中心に、地域特性に応じて住居、商業、医療、高齢者福祉、子育て支援の施設などを計画的に建てることで、都市ににぎわいや活力を与え、誰もが住みやすい都市空間がつくられます。

### ▶ 高齢化などの課題が進行する大規模住宅団地の再生

多摩ニュータウンなど高齢化が進む地域では、老朽化した団地・マンションの建替えや公共施設のバリアフリー化を地元市などと連携しながら実施することで、多世代が安心して住み続けられるまちへ再生されます。

| 事 項      | 目 標 年 次 | 目 標 値      |
|----------|---------|------------|
| 都営住宅の建替え | 2020年度  | 一部竣工(諏訪団地) |

### ▶ 将来を見据えた良質な住宅を確保

良質なものをつくり、長く大切に使うという考え方が、住宅にも根付いていきます。また、空き家の有効活用や、老朽化したマンションの再生などにより、今ある住宅を生かした良好な住環境が生まれます。





## 都市戦略 7 を知るキーワード

### ▶ ZEB(ゼロ・エネルギー・ビルディング)

政策指針 20

省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入で、年間消費エネルギー量が全体でゼロとなる建築物をZEBと呼び、温室効果ガス削減の観点から、先進国を中心にその実現に向けた動きが進んでいます。都も建築物のZEB化を視野に入れた施策を推進していきます。

### ▶ 自然豊かな緑を次世代に継承

政策指針 21

人口減少など社会状況が変化する中で、東京の緑はどんな将来像を描くべきか、議論が進められています。今後は、広域的な緑の創出や保全目標等について、緑のランドデザインとして方向性を示していきます。

### ▶ 水素エネルギー活用 of 意義

政策指針 20

水素は化石燃料だけでなく水の電気分解など、様々な原料や方法で製造することができます。また、電気エネルギーでは難しい大量貯蔵や長距離輸送が可能です。さらに、バイオマス由来の水素や風力・太陽光などの電力で水を電気分解して得られた水素は、製造過程でCO2を排出しないので、究極のクリーンエネルギーとなります。

### ▶ 真夏でも安心して過ごすための暑さ対策

政策指針 21

日中の路面温度の上昇を緩和する舗装を引き続き着実に整備していきます。また、ドライ型ミストの設置や緑の整備を促進し、暑さを緩和できるクールスポットを増やしていきます。

### ▶ 予防保全型管理の推進

政策指針 22

橋梁の長寿命化や下水道管の再構築をはじめ、河川や港湾、道路トンネルなどにおいても、計画的な補修や補強により寿命を延ばすことができる予防保全型管理を進めます。

### ▶ 住宅セーフティネット機能の強化

政策指針 23

住宅の確保に配慮を必要とする人に、適切な住宅が供給されるよう、住宅セーフティネット機能の維持・強化を進めています。その一環として、最大で年間4,000戸程度の都営住宅の建替えを進めます。

### ▶ 首都高速道路の大規模更新

政策指針 22

1964年大会のレガシーである首都高速道路について、大規模な更新や修繕に取り組みます。東京の大動脈である首都高速道路の更新をはじめ、首都東京の骨格をなす都市インフラの再生を前進させます。